

2024年度(第21回)総会終わる

日時: 1月22日(日) 午後1時00分開会

場所: 村上市教育情報センター 視聴覚ホール



2024年度(第21回)総会が村上市教育情報センター1階視聴覚ホールにおいて開催されました。座席の間隔を空け、座席の消毒、マスク着用など、新型コロナウイルス感染症防止の対策をとって行われました。後半は、青木貴志様の講演会があり、市民の参加者も多く、盛況でした。

2024年度総会に当たって (挨拶文)

いわふね自然愛好会会長 富樫 繁春

昨年は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、総会と講演会は何とか開催しましたが、懇親会と宿泊研修会などを中止しました。しかし、観察会は会員を中心に開催してきました。

また、3年間、自然調査に取り組んできました高坪山の報告書の発行が、本来なら3月発行の予定が編集に時間がかかりましたが、ようやく今日の総会に間に合わせることができました。

次に、環境省から委託されたアカハネバツバ保全活動も2年目で、個体数調査と砂丘植生調査の2本立てで15回、延べ102名の参加で取り組み、その果は、報告書として環境省へ提出します。同じもの

を会員の皆さんへもお届けします。本年度は、同種の見守りと生息環境整備を中心に取り組む計画です。是非ご参加をお願いします。

昨年の参加人数は、観察会143人(下見含む)、学習支援499人(下見含む)、山元遺跡周辺調査73名、みらいファンド事業112名、環境フェスタ多数、みもとの池保全4名、計933名余りでした。

さて、本年度は創設21年目。懇親会、宿泊研修会など、徐々に活動を元に戻しつつ、安全に配慮し、楽しい活動を計画していきたいと思えます。

総会の概要は次のとおりです。

(報告事項)

会員入退会では、退会3名、新規入会は長谷川さん、菅井美さん、板越さん、渡辺由さん、金子武さんの5名、会員数は76名。

(第1号議案)

2023年度の事業報告並びに収支決算の承認

(1)事業報告

会議に関するものは7回。研修に関するものでは、宿泊研修は中止。観察会は6回開催、計画したものの雨天のため中止が1回。下見時の参加数を含め参加総数は143名。他に学習支援、山元遺跡周辺の自然調査、あらかわみらいファンド助成関連、アカハネバッタ保全事業、環境保全支援活動などの報告。

(2)決算報告・監査報告

収入の部 会費72,000円・繰越金74,930円・雑収入61,580円、合計208,510円。

支出の部 主なものは、通信費や消耗品費、資料印刷代等の事務費22,662円、研修会や観察会・会報作成等に係る事業費91,101円、雑費50,000円はHP作成費。合計は164,513円となり、収支差額は43,997円、次年度に繰越される。

その他、高坪山の自然に親しむ会及びアカハネバッタ保全請負業務の収支報告と監査報告。

(第2号議案)

2024年度事業計画(案)と会計予算(案)

(1)事業計画案 会議に関するもの9件、研修会2件、観察会6回、山元遺跡周辺自然観察15回、環境保全活動等が提案される。

(2)会計予算案 収入・支出147,000円。

(3)役員改選案 (下表のとおり)

以上の3議案は、審議の結果、原案どおり議決されました。

役職	氏名	備考
会長	長谷川 さん	
副会長	菅井美さん	
会計	板越さん	
監事	渡辺由さん	
代表幹事	金子武さん	
常任幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		
幹事		

《研修会》 講演会 「笹川流れ海中記」

講師：青木 様 (いわふね自然愛好会会員)

今回講師を務めたの青木会員は、潜士、スキューバダイビング等の有資格者で、『笹川流れの自然』(いわふね自然愛好会, 2014) では、笹川流れの海産生物159種を記載している。

その後も調査を継続、60回以上も潜水している。水中撮影した画像を投影しながら魚類60種、ウミウシ類30種、クラゲ6種、サンゴ類3種などを紹介。

講演の中で、笹川流れは周囲からの流入河川が多いために塩分濃度(栄養塩)が低く、(5ページへ)

山元遺跡周辺植物調査確認種リスト

調査日:2024年4月10日

場所はAコース

参加者 :田川、工藤、斎藤ふ、斎藤美、中村 計5名

:※は写真などがあるもの。

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名	備考
1	アオハダ	モチノキ	※	37	ツタ	ブドウ	※
2	アカマツ	マツ		38	ツルアリドオシ	アカネ	※
3	イタドリ	タデ		39	ツルニンジン	キキョウ	※
4	イタヤカエデ?	カエデ	要確認 エゾイタヤかも。	40	トリアシショウマ	ユキノシタ	
5	イモノキ	ウコギ		41	ナガハシスミレ	スミレ	※
6	イワガラミ	アジサイ		42	ナナカマド	バラ	サビバナナカマド?
7	ウスバサイシン?	ウマノスズクサ	2023年は見つけていない。要確認	43	ナルコユリ?	キジカクシ	※ ミヤマナルコユリ?
8	エゾノギンギシ	タデ	Aの入り口	44	ナンゴクナライシダ	オシダ	※ 標本
9	エゾズリハ	ユズリハ	※	45	ニシキゴロモ	シソ	※
10	オオバクロモジ	クスノキ		46	ノイバラ	バラ	
11	オクモミジハグマ	キク	※	47	ノゲシ?	キク	※
12	オトコエシ	オミナエシ	※	48	ノダケ	セリ	
13	カタクリ	ユリ	※	49	ハイイヌガヤ	イヌガヤ	要確認
14	ガマズミ	ガマズミ	※	50	ハイイヌツゲ	モチノキ	※
15	キクザキイチゲ	キンポウゲ		51	ハコベの仲間	ナデシコ	コハコベかも。
16	ギンギシ	タデ		52	ヒサカキ	モッコク	※
17	キヨタキシダ	イワデンダ		53	ヒノキ	ヒノキ	
18	クサイチゴ	バラ		54	ヒメアオキ	ガリア	
19	コシアブラ	ウコギ		55	ヒメオドリコソウ	シソ	
20	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ	※	56	ヒメヒオウギズイセ	アヤメ	※ Aの入り口
21	コナラ	ブナ		57	ベニシダ	オシダ	
22	シシガシラ	シシガシラ		58	マキノスミレ	スミレ	※
23	ショウジョウバカマ	メランチウム		59	マダケ	イネ	
24	スイバ	タデ	Aの入り口	60	ミズナラ?	ブナ	※
25	スギ	ヒノキ		61	ミヤマガマズミ	ガマズミ	
26	スギナ	トクサ	Aの入り口	62	ムラサキシキブ	シソ	
27	スミレサイシン	スミレ	※	63	モミジイチゴ	バラ	※
28	セイタカアワダチソウ	キク	Aの入り口	64	ヤエムグラ	アカネ	Aの入り口
29	セイヨウタンポポ	キク	Aの入り口	65	ヤツデ	ウコギ	
30	ゼンマイ	ゼンマイ		66	ヤブコウジ	サクラソウ	
31	タガネソウ	カヤツリグサ		67	ヤブツバキ	ツバキ	
32	タネツケバナ?	アブラナ	ミチタネツケバナかも	68	ヤマユリ	ユリ	※
33	タブノキ	クスノキ		69	ヨモギ	キク	
34	タラノキ	ウコギ		70	ワジュロ	ヤシ	
35	チゴユリ	イヌサフラン		71	ワラビ	コバノイシカグマ	
36	チマキザサ	イネ					

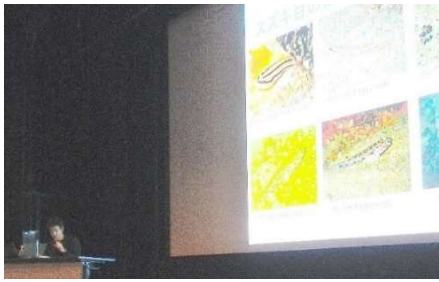
※根生葉や芽吹きではっきりしないものがある。今後、確認していく必要がある。
エゾイタヤとイタヤカエデは同じ種?植物目録ではイタヤカエデは広義でエゾイタヤは「Acer pictum subsp. Mono」となっている。

高坪山自然観察会下見植物リスト

調査日 2024年4月11日

場所: 鞆江駐車場～西山古道コース～西山～巨木ブナ～虚空蔵峰～吉ヶ沢城跡～寝小屋城跡～城跡コース入口
 参加者: 斎藤ふ、斎藤美、中村、富樫 計4名

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名	備考
1	アオハダ	モチノキ		40	スギナ	トクサ	
2	アカマツ	マツ		41	タガネソウ	カヤツリグサ	
3	アクシバ	ツツジ		42	タネツケバナ	アブラナ	細かい分類ははっきりしない。
4	アメリカセンダングサ	キク		43	タムシバ	モクレン	
5	アラカワカンアオイ?	ウマノスズクサ	観体数が少なくはっきりしなかった。	44	タラノキ	ウコギ	
6	イノデ	イワデンダ		45	チシマザサ	イネ	ネマガリタケ
7	イモノキ	ウコギ		46	チマキザサ	イネ	
8	イワウチワ	イワウメ		47	ツルアジサイ	ユキノシタ	
9	イワガラミ	ユキノシタ		48	ツルアリドオシ	アカネ	
10	ウスノキ?	ツツジ	芽吹きの状態	49	ツルシキミ	ミカン	
11	ウバユリ	ユリ		50	ツルリンドウ	リンドウ	
12	ウマノミツバ	セリ		51	ナガハシスミレ	スミレ	
13	ウワミズザクラ	バラ		52	ナナカマド	バラ	
14	エゴノキ	エゴノキ		53	ニフトコ	スイカズラ	
15	エゾノギシギシ	タデ		54	ノアザミ?	キク	根生葉ではっきりしない
16	エゾユズリハ	ユズリハ		55	ノイバラ	バラ	
17	エンレイソウ	ユリ		56	ハイイヌガヤ	イヌガヤ	
18	オオイワウチワ	イワウメ		57	ハイイヌツゲ	モチノキ	
19	オオカメノキ	スイカズラ		58	ハウチワカエデ?	カエデ	芽吹きの状態
20	オオタチツボスミレ	スミレ		59	フキ	キク	
21	オオバキスミレ	スミレ		60	ブナ	ブナ	
22	オオバクロモジ	クスノキ		61	ホオノキ	モクレン	
23	オクチョウジザクラ?	バラ	芽吹きの状態	62	マルバアオダモ?	モクセイ	芽吹きの状態
24	ガマズミ?	スイカズラ	ニヤマガマズミかも、芽吹きの状態	63	マルバマンサク	マンサク	
25	キケマン	ケシ		64	ミズナラ	ブナ	
26	キタゴヨウ	マツ		65	ムラサキシキブ	シソ	
27	キヨタキシダ	イワデンダ	赤コゴミ	66	モミジイチゴ	バラ	
28	クサギ	クマツヅラ		67	ヤブコウジ	サクラソウ	
29	クサソテツ	コウヤワラビ	カクマ	68	ヤマウルシ	ウルシ	
30	クリ	ブナ		69	ヤマエンゴサク?	ケシ	
31	ケアブラチャン	クスノキ		70	ヤマツツジ	ツツジ	
32	コシアブラ	ウコギ		71	ヤマナラシ	ヤナギ	
33	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ		72	ヤマモミジ?	カエデ	芽吹きの状態
34	コナラ	ブナ		73	ユキツバキ	ツバキ	
35	サルトリイバラ	ユリ		74	ユキバタツバキ?	ツバキ	ヤブツバキかも
36	シシガシラ	シシガシラ		75	ヨモギ	キク	
37	ジュウモンジシダ	オシダ		76	リョウブ	リョウブ	
38	ショウジョウバカマ	ユリ		77	リョウメンシダ	オシダ	
39	スギ	ヒノキ					



(2ページより)

また、砂浜の粒子が大きい、波浪による岩の浸食と地殻変動の繰り返

しとで急峻な崖が多く、地形が複雑である。

一方、海藻が豊富な要因は、河川の流れが速いため、海水の交換が良く栄養が届く。岩盤があるので、荒波でも流れずに定着に寄与、海水の透明度が高いために日光がよく届くなどによるもの。

講演を聞いて

佐藤 さん(村上市)

いつも見慣れた笹川流れの海に、あれほど多種多様な生物がおり、ウミウシだけでも30種と聞き驚きました。

また、海水の透明度が高いために日光が十分に入ることによって海藻が豊富とのこと。郷土を自慢したくなりました。

そして、講師の調査にける情熱を強く感じました。報告書記載では14回、その後も60回潜水。これは、陸上と異なり専用の装備が必要で、危険度も高い中での驚異的な回数です。また、魚など動き回る生物を探し当てるのは大変なこと。

見たことのない海の中の景色にワクワクします。

《観察会》 山元遺跡周辺自然観察会 3月31日(日)

3月31日(日)、今年度最初の観察会が、吉井雅勇様(村上市教育委員会・埋蔵文化財室長)と大野淳史様の案内・説明を交えて開催されました。天候に恵まれ快適な気候でした。



参加者は、子供2名を含む30名(講師2名、市民14名、会員14名)、3班に分かれて植物観察を行い、山頂部では3ヶ所で遺跡の発掘の様子と概要の説明がありました。お目当てのカタクリが、お昼近くになってたくさん開花し、参加者の目を引きました。



カタクリ

※山元遺跡は、越後平野北部の丘陵の上に営まれた、弥生時代後期(今から1,900年前)に最盛期を迎えた集落跡と言われています。高速道路の建設の際に新潟県教育委員会が行った調査で発見され、極めて重要な遺跡であることが分かったため保存されたものです。

山元いせき見学と植物かんさつ会に参加して

星野 さん(小4)

思ったことは、まず、1つ目は山を登るときにとってもわくわくしたこと。

次に、ふだんは見られないめずらしい植物が見られて楽しかったこと。ショウジョウバカマやカタクリ、コシノカンアオイ等のとくていの場所にしか育たない植物やぜつめつきぐしゅの植物を見ることができました。また、山元いせきのれきしや住んでいた場所、食べ物、育てていた作物等を聞くことができました。今でもよく使われているガラスや鉄、銅などが、すでにやよい時代にあったことを知り、とてもおどろきました。

最後に、やよい時代の暮らしについてもっと知りたくて、きょうみがわき、帰りに図書館によってやよい時代の本を2さつかりました。

山元遺跡周辺自然観察会に参加して

石栗 さん(朝日)

自然観察会には関心がありましたが、体力のこともあり、これまで躊躇していました。

今回の観察会の行程が自分にも大丈夫そうなこと、弥生時代の遺跡の説明会もあることから参加しました。

カタクリやスマレなどの可憐な草花を見ながら登る道は楽しく、春の芽吹きが感じられ清々しい気持ちになりました。

また、遺跡が大変重要なものであることから保存されたことなど、村上市教育委員会による説明も興味深いものでした。説明後に見る丘陵部先端からの眺望は格別で、いにしえに想いを馳せることができました。

観察会に参加して本当に良かったです。楽しい春の一日でした。

《観察会》 高坪山自然観察会 4月21日(日)

4月21日(日)に高坪山自然観察会が開催されました。参加者は9名(市民3名、会員6名)と少数でしたが、芽吹いたばかりの植物を堪能しました。



単幹巨木ブナ前

展望台からは杵差岳(えぶりさしだけ)や二王子岳など飯豊連峰の白い峰々が輝いて見えました。ウグイスもきれいな鳴き声で歓迎してくれました。タムシバ、ユキツバキ、ヤマツツジ、フジ、ガマズミ、オオカメノキ(ムシカリ)などの花が咲き、下山道脇にはアラカワカンアオイが咲いていました。



アラカワカンアオイ

下山に利用した城跡コースは、下草を刈り払ったばかりの階段もロープもない急峻な登山道で、利用者、特に初心者向けに早い整備が望まれます。



キクザイチゲ



オオカメノキ

初めての観察会

駒澤 さん(村上)

初めて参加させていただきました。何回か山登りはしているのですが、草花の説明を聞くのは初めて。スマレだけでも図鑑ができるという話に驚きました。また、遠くから山に咲いているフジの花をみてキレイだなとおもっていたのですが、樹については想像したこともなく、他の木に巻き付いて成長している姿に驚きました。本当に、何も知らなかったことばかりだったので、とても勉強になりました。皆様、ありがとうございました。

初めての観察会

石田 さん(村上)

登山歴2年目。今まで、山を駆けるように登り降りしてきたばかりで、今回のようにじっくり花の特徴を見ることもなかった。

また、展望台からは遠くの白い山々の峰を望み、その名前を教えてくださいました。楽しかったので、また参加したい。

コメリ緑育成財団

2月2日(金)、新潟市日航ホテルで“コメリ緑育成財団助成授与式”があり、会長がアカハネバツタ保全活動について発表しました。財団からは12万円が寄贈され、4月に活動資材を購入し、塩谷の木村会員の車庫に収納・保管しました。



次の方が新入会しました。

佐藤 美さん(村上)

駒沢 則さん(村上)

小田 ヒさん(朝日)

よろしくお祈いします。

いわふね自然愛好会会報 第59号
発行者: 会長 富樫 繁春
〒958-0213 村上市早稲田 1962-47
Tel. Fax 0254-73-1348
E-mail: sph43t89@ozzio.jp

編集: 会報担当 斎藤美

